

2016年度（第50回）北海道オープンゴルフ選手権競技

開催日：2016年8月30日（火）～9月1日（木）
会 場：北海道ブルックスカントリークラブ

本競技においてはこのローカルルール・競技の条件と日本ゴルフ協会ゴルフ規則を適用する。

ローカルルール

1. アウトオブバウンズは白杭で定める。（定義 40）
2. ウォーターハザードやラテラル・ウォーターハザードが片側だけ定められる場合、そのウォーターハザードやラテラル・ウォーターハザードは無限に広がるものとみなす。ウォーターハザードやラテラル・ウォーターハザードの一部がアウトオブバウンズで境界が定められている場合、その限界はアウトオブバウンズの境界線と一致する。
3. 修理地は青杭を立て、白線をもってその限界を定める。ただし、次のものを含む
 - (a) 張り芝の継ぎ目；規則付 I (A)3e を適用する
スルーザグリーンの張り芝の継ぎ目(その芝自体を除く)は修理地とみなされる。しかしながら、継ぎ目がプレーヤーのスタンスの障害となっても、それ自体は規則 25-1 に基づく障害とはみなされない。球がその継ぎ目の中にあるか、触れている場合、またはその継ぎ目が意図するスイング区域の障害となる場合、規則 25-1 に基づいて救済を受けることができる。張り芝の区域内のすべての継ぎ目は同じ継ぎ目とみなされる。（ゴルフ規則 164p 参照）
 - (b) パッティンググリーンの奥行きを標示するためのペイントマーク及び、スルーザグリーンの芝草を短く刈った区域にあるヤードエッジのペイントマークは修理地とみなされる。しかしながら、ペイントマークがプレーヤーのスタンスの障害となっても、それ自体は規則 25-1 に基づく障害とはみなされない。球がそのペイントマークの中にあるか、触れている場合、またはそのペイントマークが意図するスイング区域の障害となる場合、規則 25-1 に基づいて救済を受けることができる。
 - (c) コース内にある、木の根元のウッドチップの区域は修理地とみなされる。
 - (d) No.16 ホールのグリーン奥にある修理地はプレー禁止の修理地とする。球がその区域内にある場合やその区域がスタンスや意図するスイングの妨げとなる場合には、競技者は規則 25-1 による救済を受けなければならない。または追加の選択肢としてドロップ区域に球をドロップすることができる。
このローカルルールの違反の罰は、2 打。
4. 次のものは動かさない障害物とする
 - (a) 排水溝
 - (b) 人工の表面を持つ道路に接した排水溝（その道路の一部とみなす）
 - (c) 動かさない障害物に接している他の動かさない障害物は一体の障害物とみなす。
 - (d) 動かさない障害物に接し白線で繋がれた区域は、修理地ではなく、その障害物の一部とみなす。
 - (e) 障害物によって囲まれた部分（花壇等）はその障害物の一部である。
5. バンカーの縁を構築している土留め用木材はコースと不可分の部分とする。
6. パッティンググリーン上の芝張り替え跡は古いホールの埋め跡と同じステータスを持ち、規則 16-1c に基づき修理することができる。
7. スタートホール、並びにNo.13 ホール並びにNo.16 ホールに設置してある、ホールインワン賞看板は臨時的動かさない障害物とし、別紙に定める臨時的動かさない障害物についてのローカルルール採用する。

競 技 の 条 件

1. 競技委員会の裁定
競技委員会は競技の条件を修正する権限を有し、すべての事柄について、この委員会の裁定は最終である。
2. 使用クラブの規格
競技者が持ち運ぶドライバーは R&A 発行の最新の適合ドライバーヘッドリスト上に掲載されているクラブヘッドを持つものでなければならない。
この条件に違反するクラブでストロークを行ったことに対する罰は競技失格。（ゴルフ規則 176p 参照）

3. 使用球の規格

- a. 競技者の使用球は R&A 発行の最新の公認球リストに掲載されているものでなければならない。
この条件の違反の罰は、競技失格。
- b. 競技者が使用する球は最新の公認球リストに一種類の球として掲載されている同じブランド・同じモデルの球でなければならない。この条件の罰は、違反があった各ホールに対し、2 打。ただし、1 ラウンドにつき最高 4 打まで。

4. プレーのペースについて（ゴルフ規則 6-7 注 2）

各ホールのプレーに許される時間の限度を記載した「タイムパー」をスタート時に配布するので、これに遅れないこと。特別な事情もないのにこの時間より遅れた場合（アウトオブポジション）、ストロークに要する許容時間を個別に計測する。

※アウトオブポジションに該当しなくても遅れが生じていると委員会が判断した組に対してはペースの回復を求めることがある。

※特定の競技者のペースが著しく遅い場合はその組がアウトオブポジションに該当しなくても、その競技者に通知した上でショットに要する時間を計測し、罰則を適用することがある。

(1) アウトオブポジションの定義

次の両方に該当したとき、その組はアウトオブポジションとなる。

(a) あるホールのプレーを終えた時点で、スタートからそこまでの実際の所要時間の合計が、「タイムパー」に記載された時間を越えた場合。

(b) 第 2 組以降の組では、前の組との間隔が 1 ホール以上（パー 4 のホールを基準）空いた場合。

(2) アウトオブポジションとなった組に対する措置

あるホールを終えてある組が特別な事情がないのにアウトオブポジションとなった場合、委員会はホールとホールの間でその組全員に、アウトオブポジションとなったこと及び次のホールから各競技者のすべてのストロークに要する時間を計測することを通知する。

委員会がその組の各プレーヤーのストロークに要する時間を計測し(3)の許容時間を越えた場合、競技者に(4)の罰則が適用される。

例外：特別な事情（ルーリングや紛失球等）があったと委員会が判断した場合、委員会はその組に対して前の組との間隔を縮めるように求める。その結果、合理的な時間内に遅れを取り戻すことができれば、各競技者のストロークに要する時間は計測しない。

(3) ストロークに要する許容時間

原則：40 秒

例外：パー 3 ホールにおいて最初にプレーする競技者、パー 4 とパー 5 のホールにおいて第 2 打地点から最初にプレーする競技者、パッティンググリーン周辺やパッティンググリーンの上で最初にプレーする競技者のショットの許容時間は 50 秒とする。

注：ストロークに要する許容時間の計測は、その競技者のプレーの順番が回ってきた時に開始する。

(4) 罰 則

バッドタイム 1 回目 競技者は委員会によって（許容時間をオーバーしていることを）警告され、さらにバッドタイム（許容時間をオーバーしていることを）となった場合には罰が課せられることを告げられる。

バッドタイム 2 回目 1 打の罰

バッドタイム 3 回目 更に 2 打の罰

バッドタイム 4 回目 競技失格

注：アウトオブポジションとなった組は、その後で遅れを取り戻しても、そのラウンド中の回数は持ち越す。

5. プレーの中断と再開

(1) 通常のプレーの中断（落雷などの危険を伴わない気象状況）については、ゴルフ規則 6-8b、c、d に従って処置すること。

(2) 険悪な気象状況にあるため、委員会の決定によりプレーが中断となった場合、同じ組の競技者全員がホールとホールの間でいたときは、各競技者は委員会よりプレー再開の指示が出るまでプレーを再開してはならない。1 ホールのプレーの途中であったときは、各競技者はすぐにプレーを中断しなければならない。その後、委員会よりプレー再開の指示が出るまでプレーを再開してはならない。競技者がすぐにプレーを中断しなかったときは、ゴルフ規則 33-7 に決められているような、罰を免除する正当な事情がなければ、その競技者は競技失格となる。

(3) プレーの中断と再開の合図について

通常のプレー中断：短いサイレンを繰り返して通報する。または、サイレンを使用せず本部より競技委員を通じて競技者に連絡する。

陰悪な気象状況による即時中断：1回の長いサイレンを鳴らして通報する。

プレーの再開：1回の長いサイレンを鳴らして通報する。

6. 移動

正規のラウンド中、競技者はいかなる移動用の機器にも乗ってはならない。

但し、キャディーの乗用を認める。

この条件の違反の罰は、『ゴルフ規則付 I (B)8 移動』を適用する。(ゴルフ規則 183p 参照)

7. スコアカードの提出

本競技においてはエリア方式を採用する。

8. タイの決定

タイの決定方法は該当する競技規定に定めるが、使用ホールについては競技委員会によってゴルフコースで公表する。

9. 競技終了時点

本選手権競技は、競技委員会の作成した成績表が掲示された時点をもって終了したものとみなす。

注 意 事 項

1. 競技の条件やローカルルールに追加、変更のあるときは、倶楽部ハウス内並びにスターティングホールのティーインググラウンド付近に掲示して告示する。
2. パッティンググリーンに著しく損傷を与えるシューズは使用禁止とすることがある。
3. 競技当日のスタート前の練習は指定練習場で行い、打放し練習場においては備付の球を使用し、1人30球を限度とする。
4. 競技委員会は競技中を含めいつでも、出場に相応しくないと判断したプレーヤーの参加資格を取り消すことができる。
5. 競技委員会は規則 33-7 に基づき、エチケットの重大な違反があったプレーヤーを競技失格とすることがある。

競技委員長 中澤 有史